

小栗栖香頂『支那開宗見込』解題と翻刻(二)

陳 継東

凡例

- ・便宜上、『八洲北京書狀』所収「支那ニ浄土眞宗ヲ開キ度見込ノ件々」を「書狀本」、小栗憲一による「支那開宗見込」を「抜粋本」と、それぞれ称する。
- ・字体は全て現在通行のものに改めた。「」などの合略仮名は「コト」と仮名で翻字した。
- ・漢字字体に関しては、次の通り細則を定めた。
 - ・字体の程度の差が大きいが修正したもの
 - 无↓無 尔↓爾 亼↓事
- ・旧字体と新字体が元々別の字義を有していたとされるため、原文表記を保存したもの
- 臺(台) 餘(余) 絲(糸) 辨(弁)
- ただし、「余程」「餘程」については当て字のため表記揺れを残した。
- ・例外的に原文表記を保存したもの
- 龍(固有名詞にのみ用いられる)
- 脩(修字との通用によるが、全て脩字である)
- 迨(迄字との混同によるが、一例を除いて全て迨字である)
- ・抜粋本は書狀本の漢字をカタカナにすることが多い。例えば、「コト」(事)、「コトキ」(如き)、「コレ」(此)、「サテ」(掟)、「タツ」(立つ)、「ナリ」(也)、「ヨク」(能く)、「ユヘ」(故)などである。逆に、書狀本のカタカナを抜粋本が漢字にしている場合も少数ながらある。

- 語義の理解に関わらないため、これらについては一々校訂しない。
- ・読点「、」は原則として原文通りとし、適宜補った。中黒「・」は原文には無いが、適宜補った。また、典籍名に対しては『』を付した。
 - ・適宜段落を分けて改行一字下げとした。原本に「〇」で区切りがされている場合も、同様に改行一字下げとし、「〇」を残した。
 - ・割書は小字で示した。
 - ・原文に文字の修正がある場合、修正後の文字のみを反映させた。
 - ・補入について、補入を表す記号「〇」の有無に関わらず「」に入れて示した。
 - ・明らかな誤りと思われるものは、ルビに（〇〇か）と付すことで校訂した。
 - ・解釈上疑義があるものや、字形が不審なものについては、適宜注釈を施した。
 - ・本文中に圈点が付されている箇所は、点線を付すことでこれを示した。
 - ・本文中に傍点が付されている箇所は、破線を付すことでこれを示した。
 - ・欄外の書き入れは脚注で示した。ただし、見切れている箇所については●で翻字し、字形の一部や文脈から推測できる場合には●の直後に（ ）で示した。なお、二字以上が見切れていると考えられる場合でも●は一つのみ翻字した。

明治六年^{※1}

癸酉十月

大門殿下

新門殿下

呈 清覽

小栗憲一写上

支那開宗見込 香頂書柬中抜翠

支那ニ浄土真宗ヲ開キ度見込ノ件々

朝廷ノ開化ニ勞シ玉フヲ管見スルニ、〔追々〕^{※2} 支那ノ開

化ヲ御世話ナサレル思召ニ相違ナキ也、法主ハ此処ニ屹度

注意ナサレタキナリ、既ニ開ケタル国ハ開クニ及ハヌ、開

ケサル処ハ互ニ世話シテ開テヤルカ各国ノ心切ナリ、

〔支那〕^{※4} 大沽ヨリ北京迄邦里五十里ノ間、山ト云ハナキ

渺々タル大野ナリ、河水大ニ溢レテ田地モクツレナリニナ

リテアリ、定メテ禹ノ水ヲ治メタ後ハ誰モ水ヲ治ムルモノ

ハナキト見ヘタリ、コレヲ我西京ノ八幡ノ大堤、及ヒ越後

ノ寺泊ノ新川ノ如ク河勢ヲイクツニモ殺キ、処々ニ大堤ヲ

築ハ、今ノ如ク不毛ニハナルマヒ、汽船ハ天津迄ナリ、天

津ヨリ通州迄ハ川舟ナリ、コレモ同汽船ヲ制セハ、一日ニ

シテ北京ニ達スヘキ也、一瓶ノ凍ル天下ノ寒ヲ知ルヘシ、

支那ノ迂ナルコトハ万事此通りナリ、コレヲ外国人ヨリ

種々ニ申出ル様子ナレトモ、用ヒス〔頑固ノ肺一言吐露〕、

不便利ナルヲ以テ却テ要害トスルナリ、

※1 本資料の最初の頁に以下のような書誌情報が記入されている。

大谷大学図書館所蔵（宗史編修所旧蔵貴重書扱い図書）

『支那開教見込』（小栗栖香頂書柬中抜萃 小栗憲一写 明治六年（1973）十月）

宗編／95／1

※2 追々…書状本には無い。

※3 支那ノ開化ヲ御世話ナサレル…書状本は「支那ノ御世話ヲナサレル」。

※4 支那…書状本には無い。

※5 クツレ…書状本は「クスレ」。

※6 同汽船ヲ制セハ…書状本は「川蒸氣ヲ利セハ」。

※7 用ヒス…書状本は「用ヒヌ」。

支那ノ人情トシテ、西洋ヲ大ニ嫌ヒ、朝鮮ト日本トヲハ愛スル也、朝鮮ニハ人ナシ、日本ヨリ忠告セネハ此頑固ハ改ラヌ也、併シ日本ヨリ政府ノ威ヲ以テ云テハ行レヌナリ、教師ニ如クハナキナリ、依テ僧侶先入シテ、コレニ教ニ易往ノ大道ト、今生ノ便利トヲ以テセハ、必ス皇國ノ心切ニ感心スルニ相違ハナキナリ、人心ヲ得ルハ我真宗ニ如クハナキ也、法主モ此ニ注意〔アリ〕タキナリ、

方今我朝廷、西洋各国ニ遊學ニ遣シ、彼ノ長ヲ取テ我邦ヲ開化文明ニ進メ、遂ニハ支那ニ及ホサル、ニ相違ナキ也、^{※9}機ニ先テ事ヲナスハ僧徒護法ノ急務ナリ、例セハ英ノ三嶋ニシテ、其政事ノ仕方ハ〔三〕嶋斗リノ政事ノ仕方ニハ非ルナリ、広ク字内ノ政事ヲナス存念ト見ヘル、依テ先ツ自國ヲ開化シ、遂ニ^{※10}アメリカ^{※11}カ^{※12}手ヲ附ケ五印度七分通リ手ヲ延セリ、是日ヲ著クル大ナルニアルナリ、我朝廷ノ御政事モ大ニ英ノ開化ニ似タリ、堯舜ノ民ハ比屋封スヘシ、日本國中尽ク兵ニナリ、尽ク學ニ入テ學者ニナリ、自國ヲ開化シ已ラハ、^{※13}外國ノ世話スルヨリ外ハナキナリ、併シ英ノ外國ニ於ル、暴ヲ以スルコトアリ、依テ怨ヲ米及印度ヨリ受ルコト往アルナリ、皇國ハ他ノ國ヲ侵奪スルニ及ハヌ、自然ト感心シテ互ニ世話スル様ニナルカ、千秋ノ長

策ナリ、西洋各国ハ多クハ開ケタリ、偶ニ二三ノ未開國アレハ、^{※14}開化ノ隣國ヨリ世話スヘシ、支那ノ世話ハ日本ヨリ氣ヲ附ルカ隣國ノ好ミナリ、

支那ヲ開化セネハナラヌ件々ハ、第一ニ仏法ナリ、漢以來ノ仏法故ニ、儒仏兩道ハ自然人心ニワミ^{（ツミ）}附テ居ルナリ、然ルニ古ハ天台・淨影・玄奘・慈恩・賢首・清涼等ノ豪傑、時機ヲ見テ仏法ヲ一新スル故ニ、教化モ行レタレトモ、明末ヨリ元ニ移リ、^{※15}方今ニ來テハ唯一不立文字ノ弊斗リ残リテ、更ニ仏法ヲ更張スルノ活眼ナキナリ、

北京ニ大小百ヶ寺餘アリ、學問ヲスルハ唯龍泉寺一ヶ寺ナリ、其餘ハ尽ク不立文字〔ノ愚僧ノミ〕ナリ、可悲ノ至ナリ、^{（龍）}五臺山ニハ六百寺アリ、^{（峨）}峨眉山ニハ一百寺アリ、^{（普）}賢淨土普渡山ニハ二百寺〔アリ〕、^{（觀）}觀音淨土九華山〔天台ナルヘシ〕ニハ一百寺アリ、其餘ニ寺ノ集リタル処ハナキナリ、北京ヨリ想像シ、又郷試ノ人ニ問ニ、何レモ高僧ハナキナリ、唯旧習ニテ葬式ノ棺ヲ一年ノ間寺ニアツケルト、現世ノ僥倖ヲ祈ルトノミ、僧ハ何ヲ目的トシテ念仏スルカ、俗ハ腹中ニ仏法ト云ハナキナリ、本朝ニモ真宗ナクハ、支那ノ僧俗ノ如クナルヘシ、屹度一洗セネハナラヌ、現ニ八大寺ノ

魁タル柏林寺ハ、二層ノ本堂アリ、数十ノ房舎アレトモ、
 僧ハ僅ニ十四人ナリ、本月十一日清七月廿日上海ノ龍華寺ノ
 老僧此ニアルヲ聞テ尋ルニ、此寺ハ頗ル大寺ナレトモ、今
 ハ一切経ノ板木ノ元方ニシテ、本堂ノ左右及楼上及左右ノ
 二層楼、尽ク板木斗リナリ、三千両ニシテ藏経ヲ求ルナリ、
 此中運上千百両、紙代印工千両、柏林寺ニ謝儀四百両、其
 餘雜用四百両ト云ナリ、如是藏経ヲ売テ渡世スル位ナリ、
 二層ノ楼上モ鳩ノ糞斗リニシテ足ノ踏ムヘキ地ナキナリ、
 仏像ハイカニモ殊勝ノ彫刻ナレトモ、五六十年モ掃除ハセ
 ヌト見ヘタリ、
 八大寺ハ、柏林寺、法眼寺、万寿寺、大城寺、拈花寺、
 臥仏寺、賢良寺、広通寺、此中拈花寺ハ華嚴宗、広通
 寺ハ法相宗トノ事ナリ、憶ナルコトハ後日申遣スヘシ、
 人ハアレトモ宗風ハナヒト云コトナリ、

- ※8 相違ハナキナリ…書状本この句の下に「既ニ副嶋公十九条ノ条約ヲ結ヒ、又外国ト婚姻モ御免ニナリタル事故ニ、支那朝廷ヨリ本朝皇上ノ御子孫ヲ養子ニ貰ント申シ出レハ、満州人ニハヤラヌトハ仰セラレマヒ、養子ニナリ玉ヒテモ人心ヲ得テ置ネハ不都合ノ事モアルナリ」とある。抜粋本は省略している。
- ※9 遊学ニ相違ナキ也…書状本は「遊学ニ遣シ玉フハ、彼長ヲ取ン為ナリ、深意ハ支那ニアルニ相違ナキ也」。
- ※10 著クル…書状本は「着クル」。
- ※11 学者ニナリ、自国ヲ開化シ已ラハ…書状本は「学者ニナラハ」。
- ※12 暴ヲ以スル…書状本は「暴威ヲ以テスル」。
- ※13 偶二三ノ未開國アレハ…書状本は「亜弗利伽及メキシコ辺ハ未タ開ケサレトモ」。
- ※14 開化ノ隣國ヨリ世話スヘシ…書状本は「其隣國ノ米英ヨリ世話スヘシ」。
- ※15 明末ヨリ元ニ移リ…書状本も同文。筆者はかつて「元ヨリ明末ニ移リ」とあるべきかと考えた（本誌110号）。今考えるに、「明末ヨリ清ニ移リ」とするべきであろう。
- ※16 ノ愚僧ノミ…書状本には無い。
- ※17 天台山ナルヘシ…書状本では、「天台」を「九華」に修正している。なお、書状本には欄外に「四大名山」が記されているが、抜粋本は省略している。
- ※18 此ニアルヲ聞テ尋ルニ…書状本は「此ニ召シテ聞テ尋ルニ」。
- ※19 三千両…書状本はこの下に割書で「一兩十三吊ト云ナリ、洋銀一元八吊ニ當ルナリ」という割注があるが、抜粋本は割書で「二両」を見せ消ちにし、以下は省略している。
- ※20 八大寺ハ…宗風ハナヒト云コトナリ…この段落は書状本では欄外にあり、「四大名山」の後に置かれている。

コレヲ以テ支那僧ノ直打ハ分ルナリ、唯土風トシテ僧寺ハ存スル迄ナリ、今改革セネハ〔遂ニ尽ク〕耶蘇教ニナルヘシ、徳川家鎮港以來、外国ノ事〔情〕ニ暗キ故ニ、隣國ノ世話シテヤラネハナラヌコト、一向氣カ付ヌ様ニナリタリ、不人情ノ至リナリ、既ニ長毛ノ賊モ八万里外ノ仏蘭西ニタノンテ征伐セリ、日本隣國ニアリナカラ加勢モセズト云ハ、鎮港ノ弊ト云ヘシ、況ヤ僧徒ハ衆生無辺ノ大道心ヲ興サハ、支那ノ法滅ヲ傍觀スルハアルマジキコトナリ、

真宗ヲ興サント欲セハ、長城以東ノ地ニ一本寺ヲ作ルヘシ、長城以西ハ喇嘛教大ニ繁昌シテアリ、回教モ及ハヌ、長城以西ノ旧漢地ハ、南京ヲ以テ中央トスヘシ、南京ニ寺ヲ作ルコト大ニ可ナルヘシ、爰ニ東西ノ御連枝一人ヲ廟主トスヘシ、舟ノ便利モヨシ、内ニハ本願他力ノ利アリ、外ニハ肉食妻帯ノ便アリ、大ニ學校ヲ立テ、天台已來ノ教化ヲ講シ、日別ニ說法会ヲ開ハ、支那僧モ始ハ妬ムヘシ、次ニハ陰ニ罵ルヘシ、後ニ一同ニ帰依スヘシ、小子飽迄支那僧ノ真宗ニ帰スル兆アルコトヲ目撃セリ、

先南京ヲ本寺トシテ、十八省ニ兩人宛道心堅固ノ僧ヲ遣リ説教セシムヘシ、寺ヲ作ルニハ及ハヌ、フルキ寺イクツモアリ、買ニモ可ナリ、亦仏蘭斯僧ノ如ク商府ヲ開クヘシ、

仏蘭西僧ノ親切ナルニハ、支那人モ陰ニ感心セリ、〔初メ來ル者〕三年ノ間、言語ヲ學フ間ニ、行狀ト云ヒ親切ト云ヒ、皆々感心シテ仕舞ナリ、其後ハ出入共ニ説教ス、多人一人ヲ選ハス、依テ當時彼徒ノ入ラヌ処ハ十八省内湖南ノミト云ナリ、支那人ハ悋氣深キ癖アレトモ、僧ノ此ニ妬氣ヲ挟マサルハ、イカニモウルサキコト也、依テ我輩急ニ力ヲ尽シ、布教ノ仕方ハ、仏蘭西ヲ手本トスヘシ、

是ニ付テモ本廟ニ古來ヨリ異安心ト云モノアリ、彼徒ハイカニモ先輩ノ説ニハ戻レ共、念仏ハ申スナリ、亦正義ノ人ヨリモ根氣ヨキナリ、是ヲ責アケテ、終身ヲ禁錮スルハツマラヌ也、彼等ヲハ支那ニ遣シ、根氣ヨク言語ヲ學ハシメハ、必ス念仏ヲ引起サン、不正義ノ念仏テモ、切支丹ヨリハ可ナルヘシ、

又學寮ノ講者モ、日本斗リノ講者テハ残念ナリ、外国ニ遊フト、自分ノ無學ニモ氣カ附クナリ、中外ニ度テ恥ル処ナクハ、又學頭トスヘキナリ、依テ三十斗リ迄學問出来ハ、三十以上ヨリ支那見物ニ出ルヘシ、長崎ヨリ航海スレハ、僅ニ二日ノ舟中ナリ、上海ヨリ四日ニ天津ニ至ルヘシ、教師ハ千辛万苦セネハナラヌ者也ト決心スヘシ、況ヤ新法主ノ御洋行ヨリ訴テ、祖師蓮師ノ事ヲ追思スヘシ、サテ

南京ニ本寺ヲ作ラント欲セハ、本堂ニ弥陀ヲ安シ、左右ニ太神宮太神宮ノ太字、大ニ改ルハ一往道理モアレトモ、大ハ大明清ナトノトキニ用ル文字ニシテ、太宗太祖ナトノトキニ用ル文ニ非ス、太神宮ハ本朝ノ御先祖故ニ、太ノ字可ナリ、ト、孔夫子ヲ安スヘシ、神仏判然シテ、太神ハ仏ニ非ス^{※34}トスルハ、本朝ノミノコトナリ、外国ニ行フトキハ、屹度本迹ヲ立エハナラヌ、関羽ヲ以テ観音トスルコト、支那一般ノ事ナリ、又孔子所立ハ、^{※35}

我浄土真宗ノ俗諦規則ニ符合スル故ニ、コレヲ祭ル大ニ支那ノ人心ヲ得ルナリ、次ニ祖師堂ニハ善導法然我祖ノ三祖^{※38}ニテ然ルヘキナリ、真実ニ我ニ善提心アリテ至誠神人ニ徹セハ、必ス興隆スルニ相違ナキナリ、唯ゾメキ心デ開宗スルハ無用ノ事ナリ、^{※39}
 偕第一ニ説教シタキハ孔子ノ教ナリ、方今ノ北京風俗ハ尽ク孔子ノ意ニ反スルノミナラス、郷試ニ来リシ儒者共ノ

※21 外国の事情…書状本は「外国の事」。
 ※22 大道心…書状本は「大道志」。
 ※23 欄外に「●鎖港弊」、「●何遺憾●不扼腕」。
 ※24 欄外に「●（南）京本寺、●（十）八省派出」。
 ※25 商府…書状本は「商店」。
 ※26 初メ来ル者…書状本には無い。
 ※27 此ニ…書状本は「此辺ニ」。
 ※28 欄外に「亦一策」。
 ※29 欄外に「得痛快」。
 ※30 欄外に「古確言」。
 ※31 況ヤ…書状本は「現ニ」。
 ※32 孔夫子ヲ…書状本は「孔夫子トヲ」。
 ※33 欄外に「●（本）堂、●（中）央弥陀、●（右）太神、●（左）孔子」。
 ※34 太神ハ仏ニ非ス…書状本は「太神仏ニ非ス」。
 ※35 孔子所立…書状本は「孔子処立」。
 ※36 符合…書状本は「付合」。
 ※37 欄外に「●（祖師）堂」。
 ※38 欄外に「●（三）祖」。
 ※39 欄外に「●制不潔」。

アリサマヲ見ルニ、裸体ニシテ飯ヲ食ヒ、飯臺ノ下ニ痰ヲハキ、大道ノ中ニ白昼ニ大便シ、人ノ前ニ手鼻ヲカミ、尻ヲ拭テ手ヲ洗ハス、朝一度面ヲ洗フノミ、臍以下ハ決シテ洗フコトナシ、曾テ彼等ノ足ヲ視ルニ、十年モ垢ヲ落サヌナリ、不潔ナルコト甚シ、古ハカクハアルマヒ、夫ニ付テモ日本ニテ、詩文ノ中ニ支那人ヲ古事ニ引テ風流ラシク吟スルカ、アハレナルコトナリ、

日本ノ支那癖アル風流人、及詩文書画ニ執心スル儒者ニ、天津北京ノ大道糞屎ヲ示サハ、四十九年ノ非ヲ知り、サトリヲ開クヘシ、此地ハ寺院ニ非レハ糞坑ナシ、宿屋トテモ皆後ノ庭中ニ処々ニ踞シテ大便スルナリ、余程氣ヲ附ケヌト足ニ他ノ糞カ付ク也、夜分ナトハ容易ニハ行レヌナリ、棲ヨリ小便ハスルコトモアリ、尤塲ヲ布テ土間ナリ、火ノ用心ニハヨシ、身ノ為ニハ毒ナリ、扱糞ヲハ四五日目ニハ一処ニ集テ山ノ如ク積テ之ヲ乾スナリ、雨天ニハトケテ庭一杯ニ流レルナリ、毎日晴天ナレハ乾クナリ、之ヲ野外ニ送リコヤシトスルナリ、誠ニ野蠻ナリ、
支那人ノアリサマヲ見レハ、日本ノウツクシキ人ノ口ニ言レル処テハナヒ、奴僕同様ニ致シテモヨキナリ、是ハ決

シテ孔子ノ意テハアルマヒ、孔子モ定テ雪院手ハ洗ヘシ、孟子以下ハ知ラヌ故、孔子ハ聖人ト見ヘル、依テ是ヲ堂内ニ案シテ清潔ノ法ヲ説ハ、儒風モ一変スヘシ、先日謝月郷ニ逢シ時、「余」詩ヲ示ス、

金屋華堂夜欲無、商家相接幾千衢、

若教道路麥清潔、五大洲中第一都、

月郷曰

京都風俗壞極、弟亦不以為潔、外省到處都好、京人不要糞、并無便室、外省屋宇高至數丈、磚砌瓦蓋、便室潔淨、大師只見一処、未知中国之勝地也、無怪見笑、中国勝地、広東・漢口・南京・長州・荊州・沙市不可勝記、北京是中国最陋之處、若無主上在此、並鬼亦不在此也、

コレヲ以テ北京風俗ノ陋ナルコト知ルヘシ、外省ハ都好ト云ヘ共、上海異人館ノ外、一切皆大道ニ便ス、豈勝地アラシヤ、支那人モ内心ニハ恥シク思フコト此文ヲ以テ知ルヘシ、是説教ノ手始ナリ、

第二ノ説教ハ、婦人ノ足ナリ、支那人足先ノ小サキヲ貴フ也、予カ眼ニハ片輪同様ニ見ユレトモ、生来美トスレハ片輪モ亦愛スヘキ歟、此足ヲ小クスルコト、殊ノ外暴虐也、

三歳ヨリ靴ヲハカセテ昼夜共ニヌカセヌ也、^{（穿む）}箒ノ板橡ノ下ヨリ穿ケ出ル如ク、靴ノ中ヨリ脱シソフナ者ナレトモ、サスカニ人身ノ弱キヌケ出モセヌナリ、併シ足ノイミルニ随テ、耐カタヒト見ヘテ、小児ハ脱キタカルナリ、父母制シテ之ヲ脱セシメヌユヘ、父母ヲ虎狼ノ如ク怨ルト云コト也、中島ノハナシニ女郎モ靴ハキナカラダカレテネル、定テ足ノ先ハ五指共ニ腐リ付テアロフト云レタカ、尤ナルコト也、コレニ一ツ天然自然ノ眼ヲ開セテ、天下ノ女人ノ足ヲ助ケタヒ、ソノ父母タルモノ大ニ喜ニ相違ハナキ也、本朝人ノ眉ヲソリ、西洋人ノ腰ヲ絞ル、尽ク天然ヲ失フナリ、何レモ支那ノ足ヲ制ルニハ至ラヌ也、^{※48}是等モ日本ノ美人ノ

※40 日本ノ野蠻ナリ…この段落は書状本では欄外に置かれている。
 ※41 寺院…書状本は「寺」。
 ※42 尤塙ヲ布テ…書状本は欄外に「尤モ棲モ皆塙ヲ布テ」。
 ※43 欄外に「●（支）那癖人各懷●篇為韋弦、●大和魂不滅」。
 ※44 知ラヌ故…書状本は「知ラヌ事」。
 ※45 欄外に「●（二）婦人馬蹄」。
 ※46 支那人足先…書状本は「支那人婦人ノ足先キ」。
 ※47 腐リ付テアロフ…書状本は「クサリ付テ居ルテアラフ」。
 ※48 制ル…書状本は「削ル」。
 ※49 制セヌ…書状本は「削ラヌ」。
 ※50 欄外に「三鴉片」。
 飲ムコトナラヌ…書状本は「飲ムコトハナラヌ」。

ウツクシキ全キ足ヲ見セテ開化セハ、暫時ノ間ニ開化セン、畢竟嫉妬ヨリ出ル弊風ナレトモ、女人ノ姦通ハ足ハ小クテモ流行スルナリ、真宗ノ教ヲ真実ニ信セハ、^{※49}足ヲ制セヌトモ貞女ニナルヘシ、

第三ハ鴉片煙ナリ、^{※50}楊朗山朝ヨリ焼酒ヲノム、飲ネハナラヌト云、其故ハ十年斗リ鴉片ヲ飲ミシニ、其餘毒今ニ崇リヲナスト、此外官途ノ人ハ、尽ク鴉片ヲ飲ム也、一商曰ク、十年ノ命ハ縮メルナリ、併シ吞カ、リテヤメラレヌナリ、止レハ崇ヲナス也、依テ真宗ノ門徒ハ飲ムコトナラヌト云規則ヲ立ツヘシ、例セハ回教ノ唯猪肉ヲ制スル如ク、^{※51}豚肉ノ消化セヌコトハ洋人モ云ヘリ、回教ハ彼糞中

ニ飲食スル故ニ制スルナリ、真宗ニハ鴉片ノ一戒ヲ立ツヘキナリ、鴉片ヲ吞ムモノハ長キ世間山聖人ノ門徒タルヘカラサルモノ也、此一戒立ニハ支那人ハ追々止メテ、数千ノ人命夭死ヲ免ルヘシ、

政府ノコトハ見ルニ付、聞ニ付、聞ヌルキ事斗リナリ、是ハ僧徒ニ關係セヌ故ニ論スルニ及ハヌナリ、方今鄉試ト申シテ、十八省ヨリ召寄タルモノ一万六千四百人ナリ、此中ニ三年モ逗留シテ居ルモノアリ、幾千金ノ雜用ナリヤ、此中ニ中試ハ千人ノヨシ也、餘ノ一万五千四百人、今日カ明日カト申テ待ツナリ、中ニハ文ニ迂ナルモノアリ、人ニ頼テ及第スルト云コトナリ、多ハ賄賂テ上進スル也、學寮ノ今迄ノ講者ナリノ弊ト同シト見ルヘシ、李鴻章カ如キハ、広西ノ長毛ノ賊洪大全・洪秀全ノ巨魁ヲ擒ニシテ、之ヲ誅シ、江南平定ニナリシユヘニ、追封三代蔭子孫与国同体ト、殊ノ外立身シ、当今直隸ノ從督トナレトモ、滿州大臣ニ媚ネハ、立身ハナラヌト云評判モアリ、太平ノ久ク続ク処ハ、何レモコノ弊ハ出来ルナリ、喇嘛寺ノ盛ナルヲ見テ、滿州人ノ勢アルヲ知ルヘシ、

本朝ニ居ルト本朝ノヨキ事カ気カ付カヌ、支那ニ入レハ万事本邦ニ劣ル也、

喇嘛僧ノ事

喇嘛ヲ始メハ羅馬ト同シ事ト聞タルコトモアルナリ、北京ニ入テ初テ仏法ナルコトヲ知ル也、北京ノ儒者モ當ニハナラヌ、一儒ニ喇嘛ノ事ヲ問フニ、奇怪ノ説ヲナセリ、曰、喇嘛僧ハ哈嗎蛙ノコトノ多年脩練シテ人身ト化シ、碧眼紫鬚ト麥シタルナリ、依テ千年ノ蛙精ト云ナリ、能ク天文地理ニ通ス、朝廷之ヲ敬スルコト神ノ如シ、北方皇上出身ノ地ニアリ、京ニ入ルトキハ八座ノ黃軸ニ乗ル、從者無數ナリ、コレヲ活仏トスルナリ、此僧ハ牛羊ヲ食ヒ、綢緞ヲ穿ツ也、其徒黃衣ヲ着ル故ニ黃衣僧ト云ナリ、彼等ノ念スル經ハ、西方ノ仏教ニ非ス、赤身露体ノ男女ヲ塑シテ、仏祖トスルナリ、皇上之ヲ信シ玉フ故、興旺興旺トハアレマワルコト也、馬ノアハレ馬ヲ興旺ト云、俗語ナリ、西京ニ条通りニ、清楚貨殖トアリタリ、此清楚ト云ハ、算用シテ滯リナク払ヒ仕舞フコトナリ、時々受取書付ニ清楚完了ト書シテアリ、一錢モ不殘、清淨ニ楚々ト算用相済ト云コトナリ、スル也、五壇ノ祈禱モ、第一ニ大臣ヲ遣リ、第二ニ皇上喇嘛ヲ引テ祈リ玉フ也、此活仏モ尤前後五百年ノ事ニ通スルナレ共、江西ノ天師ヲ怕ルナリ、江西ノ龍虎山ニ天師アリ、乃チ道士ナリ、法術アリテ、掌中雷、上天梯等ノ事ニ通ス、其徒紅衣ヲ着クル故ニ紅衣ト名付ル也、彼喇嘛活仏ナルモ

ノ、仏法ト道教等ヲ滅セントセシニ、天師来リテ法ヲ金殿ニ闢ス、活仏敗北シテ其原形ヲ現ス、コレヲ以テ恐ル、ナリ、コレヨリ道士モ十年一朝スルコトニナリタリ、仏法ノ僧ハ青衣ヲ着クル故ニ、青衣^{フクイ}ノ僧ト云、青衣ノ僧ガ脩練シテ用ヒラレテ其禄ヲ奪ンコトヲ恐ルナリト云々、如是北京ニアリナカラ、儒者ナトハ喇嘛ノコトヲ知ラマナリ、

龍泉寺ノ一僧ニ聞クニ、決シテ外道ニ非ス、真実ノ仏法ナリ、中国ノ仏経ヲ持ス、经文ヲ誦ルコトハ、梵字ノ儘ヲ誦スルナリ、古特^{コト}国ノ字体ナリ、唯牛羊ノ半生半熟ノ肉ヲ啖フナリ、国家コレヲ崇敬スルコトハ、其能ク蒙古人ヲ降伏スル故ナリ、蒙古人尤喇嘛ヲ信スルナリ、喇嘛寺ノ中ニ旃檀寺ナルアリ、此寺ニ優^ウ填^{テン}王ノ刻スル所ノ梅檀ノ仏像ア

リ、姚^{（案）}燊年間ニ中国ニ入ル、宇内無双ナリ、一見シ玉ヘト云、嵯峨ノ清涼寺ノ像ト同シコトナリ、何レカ是ナルヲ不知^{※59}、

本月十一日七月廿日柏林寺ヨリ雍^{（スユウ）}和宮ニ入ル、喇嘛

寺ナリ、頗ル大寺ナリ、仏寺ノ八大ニ勝ル、コト遠シ、一喇嘛引道シテ最後ノ仏堂ニ入ル、阿弥陀仏ノ立像七丈二尺ト云ナリ、南都ノ大仏ヨリハ高キ様ニ見ヘルナリ、木像ナリ、美ヲ尽セリ、三層樓アリ、四階ヲヘテ最上ニ上ルニ仏面前ニ至ルナリ、樓上ニ無量ノ仏アリ、中ニ五臺ヲ作り、文殊ノ像アリ、宛トシテ生ル如シ、頗ル靈作ナリ、予画ニ劣ナルカ故ニ図スルコト不能也^{※60}、此外ニ仏堂僧房大門小門夥シキ事ナリ、肉食スルト見ヘテ顔色光沢アリ、不立文字ノ僧ニ不似^{※61}ナリ、柏林寺ノ僧曰ク、此寺ニ一千二百人ノ僧

※52 立ッヘキナリ…書状本は「立ッヘキコト也」。

※53 開山聖人…書状本は「開山上人」。

※54 立ニハ…書状本は「立ハ」。

※55 居ルモノアリ…書状本は「居ルアリ」。

※56 ヘルヘシ…書状本は「見ヘル也」。

※57 本朝ニ劣ル也…書状本ではこの部分は欄外にあり、「本朝」の前に○がある。さらにその前には、「皇統綿々ハ万国無比ノ国風ナリ、此

風ヲ以テ支那ヲ開化セハ、今迄ノ事ハ仕方ナシ、以後ノ支那人ハ忠義ノ風ニ一変スヘシ」とある。抜粋本はこの部分を省略している。

※58 依テ…書状本は「仍テ」。

※59 不知…書状本は「知ラス」。

※60 文中に図があり、三層の楼に対して、上からそれぞれ仏面、仏胸、仏腰下とある。

※61 不似…書状本は「似サル」。

アリ、毎日十点禱ニ說法アリ、說法僧ハ西蔵ヨリ請待シ来ルナリ、毎日ノ飯代式十兩ヲ費ス也、皆皇上ヨリ賄ヒ玉フナリ、經文ハ西蔵ノ梵文ナリ、天竺ノ東、中国ノ西ニ当ル、滿州ヨリ八千里アリ、經文ニ滿州字アリ、西蔵字アリ、彼カ諸説ハ、西蔵經ナリ、ありあコレ西蔵ノ梵字ナリ、滿字ト同シカラサルナリ、云々、コレヲ以テ喇嘛ノ事知ルヘシ、方今千二百人ノ僧ヲ養テ說法セシムルコト、字内ニ希ナル事也、清朝ノ因循ナカラ運ノヨキハ、全ク此故ニヨルヘシ、此僧ノ中ニハ定テ學者アルヘシ、予モ一往禪寺ノ語学成ラハ、彼寺ニ入りテ天竺ノ事ヲ聞タキナリ、彼已ニ念仏ス、彼已ニ肉食ス、一転セハ真宗ニ入ルヘシ、支那僧モ陰ニハ之ヲ拒メトモ、朝廷ノ用ユル所ナレハ、敬從セサルコトハナラヌ也、是吾真宗ノ開クル兆ナルヘシ、滿州ノ經文一片ヲ送ル、イカニモ西蔵文字トハ異ナルナリ、見ルヘシ、

實ニ東西合議ノ上、注意スヘキハ支那ナリ、南京ニ本寺ヲ立ント欲セハ、先此北京ニ入り、政府ノ向背ヲ諳シ、十八省ノ地理人情ヲ照シテ、而後ニ可ナルヘシ、

回々教ノ事

天津・北京ヨリ、盛京・蒙古・前後蔵ニハ喇嘛モ行ルレトモ、勢ノヨキハ回々ナリ、喇嘛ハ朝廷ノ威ヲ仮ル、回々

ハ人心ヲ結フナリ、『瀛環志略』ニアル如ク教ニ入ラサル処ヲハ戰伐シテ奪フナリ、雲南・貴州・陝西・甘肅等ノ諸省十八年ノ間ノ大乱ハ回徒ノ乱ヲナス也、此回ニモ幾派モアルト見ヘテ、乱ヲナス者ヲ花帽回ト名ク、此外ニ冲回アリ、狷回アリ、古回アリト云コト也、此教旨ノ事ハ、後日又申送ルヘシ、

僧徒ノ惡口ニ、回徒ノ寺中ニ中間ニ一大幔アリ、此内ニ一大驢馬ヲ塑ス、蓋陽の也、其下ニ一女人ヲ塑ス、其女人驢馬ト相交ルナリ云云、コレハ見タコトカナヒ、故ニ、浮説ヲ唱ルト見ヘル、人馬相交ルコトハ前ノ蛙精ト同シ虚説ナレトモ、是ハ回々ノ瑪合米德ノ所立ナルコト諸書ニ顯然タリ、偶像ヲ立ヌ故ニ此説アルナリ、予思フニ切支丹ノ中ノ耶蘇教ハ此回々ヨリ一転シタルモノナリ、天主ノ第二戒全ク回々ニ依ルト見ヘタリ、何分天竺ノ事天外道ヨリ一転シタル洋教回教ナレトモ、佛教ニ違反シテ、般若ノ智ヲ欠ク故ニ、流転ノ因トナル事、哀ムベシ、此邦ノ盛ナルヲ見テ救フノ心ナキハ大道心有情ト云ヘカラサルナリ、耶蘇教ノ盛ナルコトハ、上海已来ノ事ユヘニ弁スルニ及ハス、

支那開宗ニ付テ、^{※62}第一ノ目的ニ支那ノ言語ヲ一変シテ、本朝ノ語ニ改ムヘキ也、支那モ朝廷上テハ滿州語ヲ交ヘ用

ル也、門ノ額モ小錢ノ字モ、満州ノ田舎語サヘ通用スルニ、
本朝ノ慥ナル神代以来ノ言語通行スルニ相違ナシ、予支那
ノ言語ヲ学フニ、口ニ戻リテ云レヌ事多シ、平桓莊釐惠襄
頃、匡定簡靈景倬ノ二句ヲ、ヒン ホワン ツワン リー

ホイ シヤン チン コハン チン チエン ソ ン キ

ン タウ ムート ヨムナリ、其外シユン宣 ホワン 皇 ア

ヲ 鑒 チヤヲ 筆 等ノヨミニクキ文極テ多シ、支那人ノ口

ヲユカメタリ、目ヲ引ハリタリ、手様ヲシタリ、シテ言フ

ハ、文字ノヨミニクキニヨルナリ、

本朝ノ言ハ穩ニシテ静ニ用ヲ辨ス（ルコト、字内ニ並ナ
キ也、別シテ歌ノ手仁葉ニハツ、キト云コトアリテ、言ノ

連続スル^{※65}、実ニ天然自然ニ出ルナリ、此言ニ一変シタキ

事ナリ、之ヲ一変スルニハ所謂魚ヲ得ノ筈カ入用ナリ、先

一往支那語ニ通シ（此一著ノ急務也）、神代ノ卷モ御仮名

聖教モ漢文ニ致シテ、支那ノ儒者モ感心スル様ニシテ、一

往彼ニヨマセ、信セサセ、而後ニ喇嘛僧ノ梵字ヲ教ルコト

※62 欄外に「●遠大高」「今日急務」。

※63 満州ノ田舎語・書状本はこの句の上に「満州字ヲ交ヘテアルナリ、コレテナケレハ、満州人カ分ラヌナリ」とある。抜粋本は省略している。

※64 歌・書状本は「哥」。

※65 連続スル・書状本は「連続スルコト」。

※66 欄外に「●（学）寮改正」。

ク、本居ノ『古訓古事紀』モ『御聖教』モヨマセタキ也、
夫ヨリ漸々ニ引入セハ、支那中尽ク邦語トナルヘシ、然ル
時ハ再ヒ言ヒニクヒイワン チユワン 等ノ言ハナクナルヘ
シ、支那人モ平易ニ云ハレタナラハ、婦人ノ足ノ束縛ヲ解
ク如ク喜フヘシ、

支那開宗ノ前ニ、学寮学風ヲ一洗イタシタキ事也、俱舍^{※66}・

唯識・華嚴・天台ノ学ハ、暫時モ廃テハナラヌ事ハ勿論ナリ、

此上ニ天文地理ト西洋学ト支那学トヲ開クヘキナリ、宗学

ニ次テノ急務ハ支那学ナリ、小子ハ三年シタナラハ言語ニ

通スヘシ、是ハ本邦ニテ支那ノ言語ニ通セサル故ニ、無用

ノ光陰ヲ語学ニテ消スルナリ、依テ此節『幼学須知』ト『詩

韻含英』ト四書ト三部経ニ支那音ヲツケテ、来年成就ノ上

ニ送ル故ニ、有志ニヨミ習ハセテ、三年斗リモヨマセテ置

テ、支那ニ入テハ、語学斗リニシテ置カハ、大ニ力ヲ省ク

ナリ、又外ニ支那俗語ヲ集テ二三言斗リ、和訓ト対映シ

テ送ル積リナリ、何卒上木シテ貫ヒタキ也、支那八十八省

言語皆異リ、漢東ノ言ト北京ノ言トハ大ニ異リ、言ノツ、リモ異リ、此庵ニ四^{スエーデン}川ノ人郷試ニ来ルカ、庵僧ハ更ニ彼カ言ハ解セヌナリ、依テ北京言ヲ本トシ、十八省各々ニ一両僧宛ツカハシテ、処々ノ言語ヲ学セタキコト也、北京語ハ十八省ニ通用シテ、十八省ノ言ハ其一中ニ限ルナリ、支那ノ言語ヲ覺ヘ、漢文ヲ以テ一往御仮名聖教ヲ訳シ、支那人ニ施ス事誘引ノ巧方便ナリ、^{※67}

衣裳ノ事モ、僧徒丈ハ一定シテ置クヘシ、僧徒ノ衣裳ハ、西洋ト支那ト本朝トヲ折衷スヘシ、衣ハ筒袖可ナリ、併シ西洋ハ餘リ狭ナリ、支那ハ餘リ長シ、支那ノ如ク寛ニシテ、西洋ノ如ク短クスヘキナリ、裳ハ日本ノハカマヨキ也、別ニ考ニ及ハヌナリ、西洋テハスホン・マンテル、支那テハ襖子・褲子ト云ナリ、何レモ上下衣裳ノ事ナリ、法主ハ白衣紫袴可ナリ、法妃ハ紫衣緋袴可ナリ、法衣ノ事ヲ袍子ト云ナリ、是ハ日本ノ直綴并ニ裳附ノ類ナリ、^{※69}袈裟ハ五条七条可也、支那ノ法衣ハ不可也、支那僧ハ絹衣ヲ一切用ヒヌ故ニ、末代ノ人望ヲ失フナリ、本朝ノ金爛ヲ見セハ、定テ驚愕スヘシ、満州人ノ寺ヲ作ル如ク、初ハ人ヲ驚ス事可ナリ、帽子ハ禪宗ノ帽子ハ不可ナリ、鳥ノオトシノ如キ也、道士ノ冠頗ル風韻アリ、コレニ四面ニ金絲ノ房ヲ垂レハ、

尤可ナルヘシ、北京ハ尤寒地故ニ、旧曆七月以後ハ帽子入用ナリ、

婚禮ノ式モ、^{※70}開山ノ前ニ往約ヲ結セルコト肝要ナリ、憲一ニ兼テ申含メル如シ、法事ノ音楽ノ事ハ、御所ノ伶人ノ旧音楽可ナルヘシ、喇嘛寺ニハ定テ音楽アラン、後日申送ルヘシ、

葬式ハ、支那ハ聖人風ニテ餘程手厚キコト也、^{※71}日本人ノ及ハヌ事也、『礼記』ノ通りニハセネトモ、哭泣ノ事モ、カリモカリノ事モ、寺賽詣ノ事モ、日本人ノ薄情ト大ニ異リ、依テ正覺ノ花ヨリ化生シテ、衆生ノ願樂満足スデハ、支那人人情ニハ合セヌナリ、無常ノ人情ヨリ、葬式ヲクミタテ、『礼記』等ヲ折衷シタキ事ナリ、此外万般ノ事ハ、西東両法主ノ斟酌ヲ希フヘシ、^{※72}

此地ニ城隍廟ト申シテ、京中ノ死人ノ魂ヲ送ル処アリ、七月十五日ノ盆ノ灯籠ニ大ナル舟ヲ作テ献ス、一切之ヲヤリ賑々シキコト也、道士ノ寺ニテ頗ル奇観ナリ、閻王等尽ク安置スル、道士ノ事モ後日申シ遣スヘシ、種々ノ教法更ニ取締ナキナリ、

コレニ付テ、法主イヨ／＼支那開宗決心セハ、東西両連枝ヲ明年五月迄ニ北京ニ御苦勞ヲ願タキ也、五年モ遊学ナ

サレタラハ、言語ハ勿論、詩文ニ通シ玉フニ相違ナキ也、

然ハ小子モ御待申上ケ、随從シテ開宗ノ御手伝ヲ申上クヘ

シ、西東各一二ノ英才ヲ択ンテ、両連枝ニ附屬セシムヘ
シ、金子ハ一人ニテモ三十元、二人ニテモ五十元ニハ及ハ

ヌナリ、五人已上ニナレハ大ニ安直ナル工夫アリ、衣類ト

翫具ト書物トヲ求メネハ、飯代東脩酒炭等廿二三元ニテ一月清楚ス、来年

五月迄ニハ帰リ難用ヲ送ルヘシ、洋金百元可ナルヘシ、^{※74}明年五月迄ニ

ハイカヨフニモシテ開宗ノ根本ヲ立ツヘシ、若此ニ注目シ

玉ハスンハ、致方ハナキ也、予ハ当年中儒仏ヲ学ヒ、来年

支那人ニ施ス事誘引ノ巧方便ナリ…書状本は「支那人ニ施スカ徳川ニ一往七十万石ヲ施スノ妙ナリ」とある。

※67 欄外に「●（衣）服制度」。

※69 裳附ノ類ナリ…書状本は「裳附ニ」。

※70 欄外に「●（婚）礼」。

※71 欄外に「●（葬）式」。

※72 西東兩法主…書状本は「東西兩法主」。

※73 西東各一二ノ英才ヲ択ンテ、両連枝ニ附屬セシムヘシ…書状本には「西連ノ御供ハ連城可ナリ、東連ノ御供ハ觀源可ナリ」とある。

※74 衣類ト可ナルヘシ…書状本はこの箇所が欄外にあり、これに続いて「昨日衣裳鞋帽子一切之ヲ求メタリ、龍泉寺ニ托スル也、洋銀十三

元得ナリ。北京諸色ノ高キニハ驚クナリ、蚊帳持參シテ仕合セリ、連枝御出ナラハ、何モカモ持參シ玉ンコトヲ要ス」とある。抜粋本は省略している。

※75 貫ヒタキナリ…書状本はこの句の下に「支那ノ名物尽ク北京ニ集ル、珠玉ヲ始メ書画類ハ無量ナリ、書物モ買度キ者斗リ也、法主ノ御望

アラハ、注文ナサレンコトヲ乞ナリ、予モ来年六月迄ニハ雜用十分アルヘシ、帰舟又ハ借財ニナルヘシ、依テ上海公館ニ申遣シ、金子ヲ

切手テ送り貫ヒタキナリ、北京ニ日本公使代ニ我羅斯人アリ、其切手ヲ以テ借用シテ歸ン」とある。抜粋本は省略している。

※76 北京ノ香頂…書状本は

「追記

書狀ノ当所ハ先便申遣通リ

北京前門外南橫街南堂字胡同南 龍泉寺内清慈庵日本香頂」。

ハ喇嘛ニ入り、五月五臺山ニ上リ、六月ニ上海ニ帰リ、寧

波ヨリ天台山ニ上リ、七月上旬ニ帰国スヘシ、此事ヲ兩法

主ニ直々ニ言上シテ貫ヒタキナリ、併シ法主開宗ノ恩召アラハ、予ハ帰ルニ及ハヌナリ、已上二十二枚灯下ニ認メテ

ル、

皇九月十三日夜清七月二十二日夜

北京前門外南橫街南堂字胡同南

龍泉寺内清慈庵寄留日本香頂

此レ長公支那ヨリ弟旨ト余トニ贈ル東ナリ、丁寧反復唯
意ノ通スルヲ主トス、固ヨリ文章ノ錯雑ニ論ナシ、看者唯
ソノ一片護法ノ赤心ヲ領セハ足レリ、文中教師タル者ハ千
辛万苦セネハナラヌ者ナリト決心スヘシノ一語、コレ篇中
菩提心ノ滴膏血ナリ、一樣新聞家ノ夢想ニ非ス爾

云 酉十月廿八日 弟不学記^{※75}

（本資料は大谷大学教授木場明志先生よりご提供頂いたものであり、前回整理した資料は妙正寺前住職の小栗栖法秀氏よりご提供頂いたものである。両氏の格別なる御厚誼に、改めて謝意を表す。また、本研究は二〇二二年度青山学院大学国際政治経済学部附置国際研究センター研究成果発信プロジェクト助成によるものである。）

※75 此レ長公ゝ弟不学記…書状本には無い。

大谷大学図書館所蔵（宗史編修所旧蔵書）
 支那開宗見込
 （小栗栖香頂書中抜萃）
 小栗栖一子 明治三十五年
 （昭和九年）

編
 95
 /

明治六年

癸酉十月

大門殿下

新門殿下

呈 清覽

小栗栖一馬士

支那開宗見込

香頂書要中抜萃

東本願寺

支那ニ浮土其宗ヲ開キ度見込ノ件々

朝廷ノ開化ニ勞ミテ管見スルニ支那ノ開化ヲ御世
 詔ナレ思召ニ相違ナキ也法主此處訖度注意ナサ
 レタキナリ然レニ開ケタル國ハ開クニ及バズ開ケタル處ニ世
 詔テ開テヤルカ萬國ノ心切リ大沽ヨリ北京ニ郭里五
 十里ノ関山ト云ハナキ渺々タル大野ナリ河水大ニ濶シ田地
 モクワナリニナリテアリ是メテ島水ヲ治メテ後誰モ水ヲ
 治ムモ不キト見タラシ我西京ハ隋ノ大堤及ミ越後ノ
 寺泊ノ新川ノ如ク河勢ヲイラミ教キ處々ニ大堤ヲ築ム
 今ノ如ク不モナナルモ遠東ハ天津迄ナリ天津ヲ面州

東本願寺

東石原

東本願寺

夏本原上

卷之五

錢花亭

何置懷
二不花記

宗尼ハレトヲトナリ

ワタリテ支那僧ノ直打ノ分ナリ唯ハレトシテ僧キハ存スル
止リテ改革モナキ餘教ニハ遠隔ノ家鎮迄ハ本外
國事ヲ暗ニ故藩國ニ世誥シヤリテスル上ト向氣
カ付テ様ニナリテ人ノ情ヲナリテ既ハモハカ
里外ノ仙蘭西タラシ征伐ニリ日本藩國ニハナカラ加勢
モヤリテ金鎮港等ニテハ僧徒ノ衆モ無慮ノ大道
志ヲ興ヤリテ法藏ヲ傍觀スバカヤリテナリ
真宗ヲ興サテ欲モ長城以東ノ地ニ本寺ヲ作ルニ長城
以西ノ喇嘛教大ニ繁榮昌レテリ而教モ及バ長城以西ノ舊

東ノ頁上

是ノ山寺ノ頗ル大キナレトモ今ハ一切ノ松木ノ元方ニシテ
本堂ノ左右及樓上及左右ニ層樓蓋ヲ板ナリテ
三千兩ニテ藏經ヲ永ナリ此ノ屋上ノ千五百兩紙代印
工ナリ而松林寺ニ謝儀留兩其餘雜用四百兩ナリ如
是藏經ヲ賣テ渡セシ位ナリ層樓上ニ鳩ノ巢斗
リニテ足ヲ踏ヘキ地ナリ仙像ノイカモ殊勝ノ彫刻ナ
レトモ五六十ノ年モ掃除セテ見ヘリ
ハ大寺ノ松林寺法眼寺方壽寺大城寺松花寺臥仙寺
賢良寺廣通寺此中松花寺ノ華嚴宗廣通寺ハ法
相宗ノ寺ナリ造ナレハ後日申置スハハアトモ

東ノ頁上

正業

待補長

漢地ノ南京ヲ以テ中興トスモ南京ニテ作ルハ大可
ヘシ爰ニ東西ノ御運枝入ヲ廟トスヘシ舟ノ便利モヨシ
舟ハ本願他カノ利アリ外ニ舟食妻帶便リテ人ノ字
校ヲ立テ天台已マテ教化ヲ講シ則チ說法會ヲ開ギ又
那僧モ殆ど姑ヘシ次ニ海龍ノ後ニ同席依スレシ
紀造又那僧ノ真宗ノ席ニ兆アリテ目撃ナリ
先南京ヲ奉キシ者ハ省ノ人宛道ニ監國ノ僧ヲ置リ
說教セシムヘシヲ作ルニ及バズルキナリイフモアリ買ニモ
可ナリ亦仙蘭斯僧ノ如ク商賈ヲ開クハ仙蘭西僧ノ親切
ナレバ又那人モ隆ニ感ニセリ三年ノ間言語ヲ學ブ同待

東ノ頁上

狀トモ親切トモ皆モ感ニシテは舞ナリ其後ハ出入共ニ說教
ス多ク人ヲ隆ニ依ラ當時彼徒ノ人々處ハハ省外湖
南ニミナリ又那人ハ格氣深キ舞ノトモ僧ノ此妙氣
ヲ披ヤルバイカモモウレサキトモ依テ物草急ニカダシ
布教ノ仕方佛蘭西ヲ手本トス是ハ省モ本商ニ志ナ
ヨリ異安ニトモアリ彼徒ハイカモ先輩ノ説ハ度シキ
念ハ申スナリ亦正義ノ人ヨリモ格氣ニミナリ是ヲ責アレ
終身ヲ禁錮スバワラセ也彼等ハ又那ニ遣テ格氣ヨク
言語ヲ學シメ必ク念仏ヲ引起サテ正義ノ念仏ヲ助成
丹ヨリハ可ナレバ又學藝ノ講者モ日本ノ講者ヲ殘

東ノ頁上

堂
大
神
子
確
言

念リ外國ニ遊ト自今ノ無學ニ銘カ附カ中ノ外
ニ度ヲ耻ル處ナク又學頭スルキハリ依ラ三十ナリ迄
學問出末ニ三十ナリ文那見物ニ出ルニ長寄ヨリ
航海スル僅ニ二ノ舟中ナリ上海ヨリ四ノ天津ニ至ルニ
教師ノ千辛万苦セザル者也又ハスル況ヤ新
法主ノ御洋行ヨリ近ノ祖師蓮師ノ事ヲ追思ヘシ
サテ南京ニ本寺ヲ作ラント欲セ本堂ニ称陀ヲ安カ
右ニ大神宮ニ大神宮ニ大改メ一祖道理モアト主大光明
御先祖大神宮ニ本朝ト孔天子ヲ安カヘ神佛判然シテ
大神ハ佛ニ非ストスル本朝ノノコトナリ外國ノ行フキ此度

堂
神
子

堂
神
子

本述ヲ主テテラ又蘭羽ヲ以テ觀テトストコト文那一般事
ナリ又孔子所主ニ敬浄土真宗ノ俗諦規則ヲ付合スル故ニ
コレヲ祭ル大ニ文那ノ人ニ得ルル次祖師堂ニ善導
法然哉祖三祖然ルキナリ真実ニ我ニ苦提ベアラフ
至誠神人徹セ必ス興隆スル相違ナキナリ唯ゾメバデ
間宗スルハ無用ノ事ナリ
諸第一説教シテ孔子教ナリ方今ノ北京風俗盡
ク孔子ノ意ニ及スルニオラス郷試ニ未レハ儒者共アリサ
マヲ見ルニ郷試ニテ飯ヲ食ハ飯堂ノ下ニ痰ノキ大道
ノ中ニ白晝ニ大便スルノ前ニ手鼻ヲカミ尻ヲ拭フヤ

那
齊
各
法
大
程
子
法

洗ハス朝一度面ヲ洗フノ臍以下交シテ洗フコトヲ曾
ラ彼等ノ足ヲ視ル十年モ垢ヲ落サヌナリ本潔ナルコト
甚ト古事ニ引テ凡流ヲシテ吟ハルカハレコトナリ
日本ノ文那齊アル凡流人及詩文書畫ニ執心スル
儒者天津北京ノ大道畫尿ヲ示サ四十九年
ノ非ヲ知リサトリ聞クニ此地ノ寺院ニ非レ畫
坑ナシ厠屋トテモ皆後庭中ニ屢ニ踞シテ太
便スルナリ全程氣ヲ附ケスト足ニ他ノ糞カ付ク
也夜今ナトハ容易ニ行ヒテリ樓ヨリト便ハスル

コトモアリ丸埴ヲ布テ土間ナリ又用心ニヨリ身
ノ為ニ毒ナリ叔冀スル四五目ハ屢ニ集ク山如
ク積テ之ヲ乾スル雨火ニトケテ庭一杯流レナ
リ毎日晴天ニ乾クナリ之ヲ野外ニ送リコヤレト
スルナリ誠野盡ナリ

文那人ノアリサマヲ見レ日本ノウツクシキ人ロニ言ル屢
テハレ奴僕同様致シテモヨキナリ是ニ交ヘテ孔子ノ意
ヲアルマシ孔子モ定テ雪腕ヲ洗ヒ孟子以下ノ和又故
孔子聖人ト見ヘ依テ是ヲ堂内窓シテ清潔ノ法ヲ
説ハ儒風モ一変ヘ先日謝月郷ニ逢ヒ時請ヲ示ミ

月郷曰

金屋華堂夜飲無 商家相接幾千衢
若教道路變清潔 五大洲中第一都
京都風俗壞極廣 亦不以為潔外省到處都
好京人不要養費并無便室外省屋宇高
磚砌瓦蓋便室潔淨大師只見慶未和中國
之勝地也無怪見於中國勝地廣東漢口南
京長州荊州沙市不可勝記北京是中國最
陋之處若無主上在此並鬼亦不在此也
コレヲ以テ北京風俗ノ陋ナルコト知ルヘシ外省ハ都好ト云共

馬路

上海異人館ノ外一切皆大道ニ便ト豆勝地ヲシテ又那人
人モ内心ニ耻レク思フコト必又ヲ以テ知ルヘシ是説教ノ
手始ナリ
第二ノ説教婦人ノ足ナリ又那人足先ノ小サキヲ貴
フ也又カ眼ニ片輪同様ニ見ニモ連来美トス片輪
モ亦愛ス（キ）欲必足ヲ小クスルコト殊ノ外暴露也三歳
ヨリ靴ヲハカセテ昼夜共ニカセヌ也箒ノ板椽ノ下ヨリ
穿ク出ル如ク靴ノ中ヨリ脱シソフナ者ナレモサカニ人
身ノ弱キヌケ出モセヌナリ併ニ足ノイミレニ隨テ耐カ
タヒト見（テ）小兒ハ脱キタカルナリ父母制シテ之ヲ脱セ

鴉片

第三鴉片煙ナリ楊朗山朝ヨリ焼酒ヲノム飲子ハ
ナラスト其故十年ナリ鴉片ヲ飲ミシ其餘毒
今ニ崇リヲナスト必外官途ノ人盡ク鴉片ヲ飲ム
也一高曰ク十年ノ命ハ縮メルナリ倭シ吞カリテヤ
メラレヌナリ止ム崇ヲナス也倭ヲ真宗ノ門徒ハ飲
ムコト又スト規則ヲ定ム例セテ回教ノ唯猪肉ヲ制
スル如ク豚肉ノ消化セヌコト洋人モ云ヘリ回教ハ彼黨
中ニ飲食スル故ニ制スルナリ真宗ニ鴉片ノ一戒ヲ立ツ
ヘキナリ鴉片ヲ吞カモハ長キ世間山聖人ノ門徒タル
ヘカサルモノ也此一戒主ハ又那人ノ追々止マテ數十

シヌエ父母ヲ虎狼ノ如ク怨レト云コト也中寫ハナレニ
女郎モ靴ハキナカタカラテ足ヲ先五指共肩
リ付テアロフト云レタタカナルコト也コレニテ天然自然服
ヲ聞セテ天下ノ女人ノ足ヲ助ケタシムノ父母タルモノ大ニ喜
相違ハナキ也本朝人ノ眉ヲソリ西洋人ノ腰ヲ絞ル
ク天然ヲ失フナリ何レモ又那人ノ足ヲ制レバ至ラヌ也是昔
モ日本ノ美人ノウツクシキ金キ足ヲ見セテ聞化セテ暫時
ノ間聞化セテ畢竟嫉妬ヨリ出ル弊風ナレトモ女人ノ姦
通足ハ小クテモ流行スルナリ真宗ノ教ヲ真實ニ信セバ
足ヲ制セストモ貞女ニナルヘシ

東本願寺

ノ人命大死ヲ免レシ
政府ノコトハ見レニ付聞スレキ事ナリナリ是ハ僧徒關係セス故論ニ及ハスナリ方今郷試申シテ十八省ヨリ召寄タルモノ一萬六千四百人ナリ此中ニ三年モ逗留テ居ルモノアリ幾千金ノ雜用ナリ又此中ニ試ナ人ノヨシ也餘一萬五千四百人々々日カ明日カ中ヲ待ツナリ中ニハ文ニ達ナレモノアリ人頼テ及第スレト云コトナリ多ハ賄賂乃上進スル也學寮ノ今迄ノ講者ナリノ弊ト同シト見レシ本寺鴻臚カ如キ廣西ノ長毛賊洪大金洪秀金ノ巨魁ヲ擒ミシテ之ヲ誅シ注

南平定ナリシニ追封三代陰子孫興國同休ト殊ノ外主身も當今直隸ノ從督トナレタ満州大臣ニ媚子主身ハラスト云評判ナリ太平ノ久ク續ク處何レモコノ弊ハ出来ナリ喇嘛寺ノ盛ナルヲ見テ満州人弊アルヲ知レシ

本朝居ル本朝ノモキ事カ氣力付タヌ又郡ニハ万事本邦ニカレ也

喇嘛僧ノ事

喇嘛ヲ始メハ羅羅馬ト同シ事ト聞タルモアナリ北京入チ初メ佛法ナコトヲ知ル也北京ノ儒者モ當ハナラヌ儒

東本願寺

喇嘛事ヲ問フ奇怪詭ヲナセリ曰喇嘛僧ハ馬ノトノ多年脩練シテ人身ト化シ碧眼紫鬚ト変シタルナリ依テ千年ノ蛭精ナリ能ク天文地理通ク朝廷之ヲ敬スルコト神如シ北方皇上出身ノ地アリ京入ルキハ座ノ黃軸ニ乗役者無數ナリ又ラ泊佛ハ牛羊ヲ食ヒ綢緞ヲ穿ジ也其徒黃衣ヲ著ル故ニ黃衣僧トナリ彼等ノ念ル經書方ノ佛教非ニ赤身露體ノ男ヲ袒シテ佛祖スレリ皇上之ヲ信シテ故興旺興旺ト云フハ此也馬ヲ興旺ト云フ語ヲ英用テ漢ニ譯シ地ニ仁壽フコトナリ時ニ受取書ナリタリ此語楚ト云フアリ鐵ニ不腐清淨不變莫用相濟トコトナリ

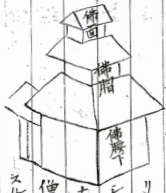
東本願寺

スル也五壇ノ初禱モ第一大臣ヲ遣リ第二皇上喇嘛ヲ引テ祈リテ也此治佛モ尤前後五百手ノ事ニ通スルナレ共江西ノ天師ヲ怕ルリ江西ノ龍虎山ノ天師アリカテ道士ナリ法術アリテ掌中雲上天橋等ノ事ニ通ス其徒紅衣ヲ著ル故ニ紅衣ト名付ル也彼喇嘛治佛トモク佛法ト道教等ヲ滅シレセシ天師来リテ法ヲ全殿闢ミ治佛敗北シ其原形ヲ現シテ以テ心ハナリコレヨリ道士モ十年一朝ニコレニナリメリ佛法ノ僧ハ青衣ヲ著クル故ニ青衣僧ト云フ又僧カ脩練シテ用ヒテ其祿ヲ奪フコトヲ恐ルナリト云是ハ北京ニアラハ儒者

ナト喇嘛ノコトヲ知ラマナリ龍泉寺ノ僧ノ聞クモシテ
外道ニ非ズ真実佛法ナリ中國ノ佛經ヲ持シ經文ヲ
誦ルコトモ覺字ノ依テ誦スナリ古特國ノ身体ナリ唯牛
羊ノ半生ヲ熟ノ肉ヲ啖スナリ國家ニシテ宗教ニコト
不其能ク蒙古人ノ降伏スル故リ蒙古人ハ喇嘛ヲ信
スナリ喇嘛寺ノ中ニ檀檀寺ナリ此寺ニ優壇王ノ
刻スル所ヲ檀檀佛像アリ姚奉年間中國ハ入リ寺内
無雙ナリ一見シ玉ト云々^{（略）}檀檀寺ノ像ト同^{（略）}本月十七日
柏林寺ヨリ雍和宮入リ喇嘛寺ナリ頗レ大寺ナリ佛寺
ノ八大勝トコト遠シ喇嘛教道ニテ最後ノ佛堂入リ

東本願寺

阿彌陀佛ノ五像七丈ニナリ南部ノ大佛ヨリ高
ナ様見ヘナリ木像ナリ美ヲ盡セリ三層樓アリ四
階ヲヘテ最上ニ佛面アリ^{（略）}樓上ニ元豐ノ佛ア
リ中ニ五世ノ作リ人殊ニ像アリ免ト
シ生ルカ^{（略）}頗レ靈化ナリ^{（略）}西カ
ルカ故ニ圖スルコト不能也此外佛堂
僧房大内ノ門野ニナリ^{（略）}肉食
スルト見ヘテ顔色光澤アリ木立文
字ノ僧ニ似ナリ柏林寺ノ僧曰ク此寺ニ三百人ノ僧
アリ毎日十點禱ニ説法アリ説法僧ハ西藏リ請待シ



東本願寺

未ダリ毎日ノ飯代取ナリ^{（略）}普皇ニヨリ贈主
アリ經文ハ西藏ノ梵文ヲ大竺ノ東中國ノ西ニ當リ滿
洲ヨリハ千里アリ經文滿洲語アリ^{（略）}西蔵ノ^{（略）}彼カ
諸説^{（略）}西蔵經ナリ^{（略）}西蔵ノ梵字ナリ滿
字ト同シカラサルナリ^{（略）}以テ喇嘛ノ^{（略）}方
今ナニ百人ノ僧ヲ養食テ説法セラルコト寺内ニ席ナル
事必清朝ノ因循ナリ^{（略）}運ノヨキ父^{（略）}此説ニルヘシ
此僧ノ中ニ是テ學名アル^{（略）}一性禪寺ノ語學
成ラバ彼寺ニ入ラテ天竺ノ事ヲ聞クナリ^{（略）}彼已ニ念仏
ニ彼已ニ肉食ヲ轉セバ^{（略）}入リ^{（略）}僧モ陰ニ之

東本願寺

ヲ拒メモ朝廷ノ用ニ所^{（略）}敬從セラルコトナラヌ也是言
真宗ノ所^{（略）}北ナルヘ滿洲ノ經文一冊ヲ送ケルモ^{（略）}西藏
文字ト異ハルヲ見ル^{（略）}
實ニ東西合議ノ上注意スル^{（略）}文那リ^{（略）}南宮^{（略）}本寺
ヲ^{（略）}欲セバ先此北京ニ入リ政府ノ向背ヲ語シ十八
省ノ地理人情ヲ照ラス而後^{（略）}可ナル^{（略）}
回教ノ事
天津北京ヨリ盛京蒙古前後藏ニ喇嘛モ行ル^{（略）}モ
ヨキハ回教ナリ喇嘛ハ朝廷ノ威ヲ假シ面々人^{（略）}結クナ
リ瀛環志畧ニテ如ク教ニ入ラレ處ニ戰伐ニ^{（略）}奪

東本願寺

百五十五
今日迄

ルモノアリ大ま第一戒全ク回ミ依レト見ヘタリ何カ天竺ハ
事天外直ヨリ轉ハタリ洋教回教ヤレモ佛教ノ違及シ
ハ般名ノ智ヲ失ク既ニ流轉ノ因トモ事衣ノ違邦
ノ盛ナルヲ見テ救フノ心ナキハ大道ニ有情ト云ヘタリサルナリ
耶蘇教ノ盛ナルコトハ上海ニ來ノ事ニ在ル及ハル
支那開港ニ付テ第一目的ニ支那ノ言語ヲ一愛シテ
本朝ノ語ニ改メキ也支那モ朝廷上テハ滿州語ヲ交ヘ
用也内ノ願ニ小錢ノ字モ滿州ノ田舎語サハ通用スルニ
本朝ノ體ナル神代以來ノ言語通行ナク相違ナリ支
那ノ言語ヲ學ブニ度ヲ云レヌ事多シ手相壯麗

東本願寺

子ノ雲南貴州陝西甘肅等ノ諸省十年ノ間大亂
ハ回徒ノ乱ヲ云ヒ也此回ミ幾流ミアルト見ヘタリナキ有テ
花帽回ト名ク此外ニ冲回アリ獨回アリ古回アリトモコト也
此教皆事ノ後日又申述シテ僧徒ノ惡口面徒ノ寺
中ニ中間ニ大帽アリ此外ニ大驢馬ヲ望ミ蓋陽的
也其下ニ女人ヲ翹ミ安人ノ驢馬ヲ相交ルナリ云レハ
見タコトカナ故ニ浮説ヲ唱レト見ヘタリ馬相交ロト
ハ前ノ蛙精ト同シ虚説ヲ唱レトモ是ハ回ミノ瑪今未徳所
立ホコト諸書ニ顯然タリ偶儻ヲ云ス故ニ此説アルナ
リ予思フニ切支丹ノ中ノ耶蘇教必回ミヨリ一轉シタ

東本願寺

正慶改元

也夫タリ漸ク引入セ支那中盡ク邦語トルモ然ル時再
ビ言ヒシレウシチウシチ等ノ言ナクナルモ支那人ハ手勿
ニ云レタナク婦人足ノ束縛ヲ解ク如ク喜ヘシ
支那開港ノ前ニ學藝學問ニ洗メタナキ事也俱
舍唯識學嚴文多ノ學藝暫時モ廢テナラヌ事ハ勿
論ナリ此ニ天文地理ト西洋學ト支那學トヲ同ク
ナリ京學ニ次ク急務ハ支那學ナリ小ナキニ年ニシタ
ナラハ言語ニ通スモ是ハ支那ノ言語ニ通セザル故
ニ無用ノ光陰ヲ語學ヲ消シナリ依テ此節幼學須知
ト討韻合英ト四書ト三部經ニ支那語ヲツケテ未年成

東本願寺

惠震環画定簡靈景悼儔ノ二句ヲモホシツリ
ホイエンチンヨシチエンチンキタカトヨナリ其外ニ
宣ホフ皇アラ廣金ハバタ筆等ノ台ニニ文極テ多シ
那人ノ口ヲガナリ自ラ引バタタ手探クシタリシテ言フ
父字ノヨニニキヨナリ本朝ノ言ハ穩ニシテ靜ニ用フ
辨ヲ要天然自然ニ出ナリ云レハ一義ニシテ事通縁
ヲ一変ニシテ所謂英ノ得筈カ入用ナリ此ハ從支那
語ニ通シ神代ノ卷ニ衛假名聖教モ漢文ニ致シ支那ノ
儒者モ感心スル様シタニ從彼ニ從信セザシ而後喇嘛僧
ノ執事ヲ教ルモ承和ノ古訓事紀モ衛聖教モヨセタキ

東本願寺

服制度

乾上送ル故有忘ニ習ハセテ三年ナリモモテ置テ又
那ハ入テ語學ナリニ置カ大ニカテ省ナリ又外支那
俗語ヲ集テ三十言ナリ和訓ト對政ニテ送ル積リナ
リ何事上ホシテ貫ヒタキ也又那ハ十八省言語皆異
リ漢東ノ言ト北京ノ言ト大ニ異リ言ノツリモ異リ以
庵ニ四川ノ人郷試ニ来ルモ庵僧ハ更ニ彼カ言ハ解セズ
リ依テ北京言ヲ本トシ十八省各々ニ二僧宛ツカシテ處
々ノ言語ヲ傳セタキト也^{北京語ハ本省通用ニシテ}又那
ノ言語ヲ傳ヘ漢文ヲ以テ^{十八省ノ言其省中通用ニシテ}僧徒依テ^譯又那
人施ス又誘引ノ巧方便ナリ

衣裳ノ事僧徒ハ一定テ置テ僧徒ニ衣裳^西
洋ト支那ト本朝トナ折衷ヘ^{衣ハ管袖可ナリ}惟シ西
洋ハ餘リ狭ナリ又那ハ餘リ長シ又那ノ如ク寬シテ西洋
ノ如ク短スヘキナリ^{裳ハ日本ハカマヨキ也別ニ袴ニ及ハズナリ}
西洋ヲハスシテ又那ノ秋子^{褲ナリ}何モ上下衣
裳ノ事ナリ法主ハ白衣紫袴可ナリ法妃^{紫衣紫袴}
可ナリ法衣ノ事ヲ袍子トナリ是日^{日本}直綴^并裳
附ノ類ナリ^{紫衣ニ五條七赤可也}又那ノ法衣ハ不可也
支那僧ハ絹衣ヲ一切用ヒテ故未代ハ人望ヲ失フナリ^本
朝ノ金爛ヲ見セテ是ノ驚愕スス滿州人ノ言ク作如

禮

初ハ人ヲ驚ス事可ナリ帽子^{禪宗ノ帽子ハ不可ナリ}鳥ノ
オトリノ如キ也道士ノ冠頗ル醜觀ア^モ四面全絲房ヲ垂
ヒテ可也^モ北京ハ東地故舊曆七月以後帽子ヲ入用リ
婚禮式モ開山前住約結ヒテ^{肝要ナリ}憲ヲ申
合メル如ク^{清事ノ音樂ノ事}衛所^{伶人ノ舊音樂可ナル}
ハ喇嘛寺ハ一定テ音樂アラハ後日申送ルニ
葬式又那ノ重人凡テ餘程手厚ナリ也日本^人及ハス
事也禮記ノ通りハセテ要注ノ事ニナリモカリノ事ミ
寺寮詰ノ事モ自今ノ薄情大ニ異ナ^{像ヲ正覺光}花
化生ニテ中生ノ願望満足スズ又支那人情ニハ合セズ

無常ノ人情ヨリ葬式クニテ禮記寺ノ折衷ニタキ
事ナリ此外外服ノ事ハ^西東^西法主ノ斟酌ヲ布フニ
此地城隍廟ト申シモ京中ノ死人ノ塊ヲ送ル處アリ
七月ハ五ノ金ノ灯笼籠大ナル舟ヲ作テ載テ切之
ヲヤリ販ヒシキ也道士寺ニテ頗ル奇觀ナリ^{蘭王}
寺盡ク安置スル道士ノ事ニ後日申シ遣スニ種
ノ教法更ニ取締ナリ
コレ付テ法主ヨリ支那開宗ニ於テ^東西^西兩連放光明手
五月近北京ハ衛苦勞ヲ願フキ也五年モ遊學ナリ
言語ハ勿論詩文通ニテ相違ナキ也然ハ^山寺モ衛待申

上ノ隨從ニテ開宗ノ御手傳ヲ申上ラヘ主由東各二ノ英
 カヲ擇ニテ向連枝ノ附屬セムニ金子ニ入テモ三十元
 入ニテモ五十元ニ入ラスナリ五人已上ニテハ大ニ安直ニテ夫アリ
 衣類ノ類ニ書加テ余ヲ代東御酒散金廿三元ヲ月清延美寺主
 月正ニ歸リ難用ノ途ニテ金貨金貨等也
 明年五月迄ハイカヨスモモシテ開宗ノ根本ヲ立ツベキ此
 注目ニモハスバ致方ハナキ也予ハ當年中偶ムク學ニ來
 年ハ喇嘛ニ入リ五月五臺山ニ上リ六月ニ上海ノ歸リ學波
 ヲリ天台山ニ上リ七月上旬ニ歸國スヘ此處ニテ兩法主直
 マニ言上シテ貰ヒタナリ 倭ノ主開宗ノ恩ニテラニ金ノ歸
 シ及ヌル已上ニテ牧灯下認メテ

皇九月廿二日辰清七月十二日辰

北京前門外南橫街南堂寺朗同南

龍泉寺內清慈菴寄留日本香灰

此長公文那ヨリ弟言ト余ニ贈ヒ來ナリ丁寧又復
 唯意ノ通ニテ主トス固ヨリ文章錯雜ニ論ナレ看省唯
 ソノ片護法ノ赤心ヲ領ヒ足リ文中教師タル者ハナ
 辛萬苦ヤスナラヌ者ナリト決心スヘシ一語コレ篇中
 苦提心ノ滴膏血ナリ一撮新聞家ノ夢想ニ非スル
 云 酉十月廿八日 弟不學記

頁ニ頁ナ